

会 議 録

会議の名称	第3回豊中市環境審議会（第12期）		
開催日時	平成30年（2018年）11月22日（木曜）10：00-12：00		
開催場所	市役所第二庁舎3階大会議室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	環境部環境政策課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由	—		
出席者	委員	上甫木委員、大久保委員、上村委員、藪本委員、田中伸生委員、熊本委員、廣田委員	
	事務局	河本環境部長、勝井環境事業長、井藤環境部次長兼環境政策課長・安好主幹・松本補佐・藤岡副主幹兼係長・今川主査・宇佐美主査・池田・辻岡・高橋、減量計画課 渡邊補佐・豊田係長・射場主査・中西技能主任、中村公園みどり推進課長・奥田係長	
	その他	(株) 総合環境計画	
議題	1. 「協働の取組みに関する意見交換会」の結果について 2. 平成31年度（2019年度）「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマについて 3. 第3次豊中環境基本計画の進行管理について		
資料	資料1-1：協働の取組みに関する意見交換会（試行）のまとめ 資料1-2：フードドライブを通じた食品ロス削減に向けた取組みについて 資料1-3：協働の取組みに関する意見交換会 意見集約の関係図（案） 資料2-1：第12期豊中市環境審議会スケジュール（案） 資料2-2：第3次豊中市環境基本計画 実績公表の見本（案） 資料2-3：代表指標の評価の判断基準（案） （参考資料） 意見交換会のテーマ（案）（H30.7.31環境審議会（当日配布）資料から抜粋）		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

【開会】

○事務局

- ・あいさつ
- ・資料の確認
- ・委員紹介、傍聴者紹介

○会長

みなさんおはようございます。それでは次第に基づき、進めていきたいと思えます。それでは「協働の取組みに関する意見交換会」の結果について説明よろしくお願ひします。

1. 「協働の取組みに関する意見交換会」の結果について
2. 平成 31 年度（2019 年度）「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマについて

○事務局

資料 1-1 「協働の取組みに関する意見交換会（試行）のまとめ」

資料 1-2 「フードドライブを通じた食品ロス削減に向けた取組みについて」

資料 1-3 「協働の取組みに関する意見交換会 意見集約の関係図（案）」

についての説明

○会長

ありがとうございました。ただいま、前回試行ということで、フードドライブを通じた食品ロスの削減に向けた取組みの実施報告がありましたけれども、いまのご説明に関して何か質問や意見、補足などがあればお願ひしたいと思えます。いかがでしょうか。委員、何か補足はありませんか。

○委員

大変要領よく説明していただいたので、ポイントがつかめていたと思えます。一つは、本当に担当課で丁寧な作業をしていただいて、それが負担が大きかったということですがけれども、逆に普段は見えないことが職員の間でも共有できたという意味では、その作業を通じて得られた部分もあったように思えます。特に、どうしても縦割りになりがちなところに横のつながりができたことと、その意味ではフードドライブに関わっている方々のなかでも、みなさんそれぞれ毎日いろいろな活動をしているので、全体が見えにくかったところ、その関わっている方々自身が集まって全体が見えるようになったところは、とても大きかったのではないかと思えます。

発表当日ですけれども、意見交換の時間が少なくなってしまうと、発表の時間が予定よりも結構長くなってしまいました。しかし、最初の出だしの減量計画課の発表が、とても引き

締まってポイントを得た発表でした。あのような一つのモデルになるような発表が続くと、全体としてまとめて、意見交換の時間が取れるのではないかと思います。その時間が少ないなかで、委員にキーワードをまとめていただいたので、時間が少ない割にはポイントがどこにあるかが伝わったのではないかと思います。試行としては本当に関係の方々にとっても熱心に取り組んでいただけたので、当初思った以上のものになったのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。委員、何かありますか。

○委員

意見でもいいですか。

○会長

結構です。

○委員

資料 1-1 や資料 1-2 のまとめにあたって、事前に環境政策課とも話をさせてもらったなかで、私個人が今回させてもらって思ったのは、資料 1-1 の 4 ページの今後の可能性についてです。これが今後の可能性についてという区分になっていますけれども、要はこれがまだできていない、これからこのようなことはどうなのだろうという内容になると思います。今回いろいろな主体がそれぞれ発表され、SNS など自分たちでできることはもうされていて、反対に今後の可能性が残っていることは、いろいろな主体のパートナーシップでないといけないことだと思います。今回やってみて、協働の取組みだといってふたを開けたけれども、細かく見ていくと協働にもいろいろな度合いがあって、ある程度のことはできているところがあって、けれどももっとこれからやらなければいけない協働の課題があります。協働のステージというか、5 段階ぐらいのレベルがあるとすれば、例えばこれはいま 3 段階目であるというような、少し恣意的な要素は含まれますが、最終的に環境報告書などで掲載していくときに、いまこのような位置にあることを、分けてあげて、それをうまく表現してあげて、いまこのあたりまでは協働が進んでいるけれども、まだこのようなところに協働の課題があることをうまく示してあげたい、それが評価につながってくるのではないかと思います。それを今後の可能性についてと表現するだけではなく、このようなことについてはもう既に取り組まれているけれども、このようなパートナーシップについてはまだ可能性があって、そのような意味ではより深まっていく点があるというところを、もう少しうまく表現してあげられるのではないかと思います。そこをうまく表現することが資料 1-2 のキーポイントではないかと思います。このあたりは、多分委員も違うお考えをお持ちかもしれません

し、結構煮詰まっていないのではないかという印象を持ちました。

○会長

この到達点の定性的な評価というか、レベルを少し一つ尺度として持っておいたほうがよいのではないか、そのようなご意見でしょうか。

○委員

すぐには無理でも、積み重ねていくなかでそのようなものをしていかないと、毎年取り上げていくなかで、どのように進んでいて、そうではないかということが出てくるのではないかと思います。

○会長

委員いかがですか。そのあたりは実践されていると思います。

○委員

みなさん、お疲れさまでした。私は意見交換の部分は出られなかったのですが、前半の紹介の部分しか聞けなかったのですが、このような環境という場で協働をテーマに取り上げられたことは非常に画期的で、まずやってみて良かったのではないかと思います。ただ、少し盛りだくさん過ぎたというのが感想です。到達点とも照らし合わせながら、今回どこがねらいだったのかを考えると、グッドプラクティスを共有しようというのは一つの大きな目標だったと思います。それが前半の紹介のなかで達成できたと思います。また、思った以上に、とよなか国際交流協会にせよとよなか男女共同参画推進財団にせよコープこうべにせよ、参加者として来られた、意見を出す方として来られた方が、結構盛りだくさんの内容をお話しされていて、それはそれで今後のつながりづくりという違う軸で今後また考えていかなければいけないところです。前半と後半をまた別個の会でやったほうが、来ていた人も参加者もすっきり腑に落ちたかという気がしました。

実際、千里中央子ども食堂のお母さんなどは、情報がいっぱい過ぎて、自分のなかでも整理できなかつたとおっしゃっていました。このような活動をずっとされている方にとっては、自分のなかで咀嚼して、この日のことが理解できたかと思うのですが、来られていた方もいろいろな情報が盛りだくさん過ぎて、この会は何をやるべきものだったのかが分からなかったということは何人かからお聞きしました。そのあたりを試行的にされたので、どうしてもせっかく労力をかけるから一回でいろいろなことをやりたかったというねらいはとてもよく分かります。しかし、ふたを開けてみると、大きな二つの柱のものを一回にやったので、それは多分、委員の言った部分ともつながると思うのですが、整理する段階で現状のものをきちんと分析していくというグッドプラクティスの共有の部分もきちんと見える化して欲しいというのが一つです。今後の部分で、新たな分野から環境に関わるキ

ワードをたくさんいただいているので、そこはそこでこれからの部分という可能性というところで整理されると、せっかく中身の濃いものを使ったものの成果が出てくるかと感じました。

○会長

ありがとうございます。他の委員の方いかがでしょうか。委員お願いします。

○委員

私はフードドライブについての知識などそれほどなかったのですが、市民の目線からすると、もう少し横のつながりを精査し整理していったほうが、みなさんの各団体がもっと前に進めていけるのではないかと思います。そのなかで、食品ロスなどたくさん出てくるとは思うのですけれども、どこに何があるかという情報の共有まで含めた仕組みづくり、それを行政が担うか別の団体が担うかということはあるのですけれども、そのあたりの整理をしてあげると、もっと各団体がうまくまわっていけるのではないかと他の方から聞き、私もその方がよく理解できたと思います。

食品などという位置付けにおいては、たくさんの食品を市内の一般市民もお持ちなので、そのあたりをくみ上げていくような仕組みも含めて今後検討されたら、もっと発展するのではないかと感じました。

○会長

ありがとうございます。今回はどちらかという、活動している方の共有ですけれども、いまおっしゃったように、それを具体的に市民にとということもありますから、これから大きな課題だと思います。いかがですか。

○委員

われわれは働く側で組織するチームです。われわれも人権・環境をキーワードとして組織が動いておりまして、今回のこのなかでいくと、例えば社会福祉協議会が事務局をしているボランティアネットワーク豊中の構成団体でもあります。またNPOアジェンダとも環境に関わるという意味では、お互いに動きを協力しながら進めている関係もあります。また、構成組織のなかに豊中市職員もいますので、そのような意味では行政の従来やっている仕事と通じて関わりを持っているところもあるということです。今回、日本労働連合会豊中地区協議会からは参加できていなかったのですが、このような表を見せていただくなかで、われわれもこのなかで関わっているところがあるというように、あらためて気付かせていただいたところです。そのすべてとつながっていくということにはなかなかないかと思いますが、例えばフードドライブという一つの仕組み、取組みをめぐっても、これだけ多くの方々がさまざまな組織、さまざまな取組み方があることをあらためて気付か

せていただいたとされているところです。この取組みを今回、先ほどありましたように、関わっている方々が集まってということになっているので、それをいかに広げていか、ご承知していない方々に知っていただくかが、今後のねらいとしてもあるのかとされているところです。そのようななかで、私たちも協力、一緒にできることからやっていきたいと思っています。

○会長

委員もお願いできますか。

○委員

実は本年度、私どもは食品ロスの削減をテーマに取り扱っています。今月は減量計画課からの要請があり、会員のなかで20人ほどが実際に自分たちの冷蔵庫のなかを確認して、どのような食品ロスが出るか、多分減量計画課でいま集計をさせていただいている最中ではないかと思います。

意見交換会で一番気になったのは、市民の食品ロスについては、ご近所やお友達でシェアしてほしいということです。つまり、一軒一軒自分たちの家で要らないものは、子ども食堂では活かされづらいのかと、お話を伺ってとても感じました。例えば、何かドレッシングを1本持って行って子ども食堂で役立つかという、それはとても疑問と思います。豆板醤を1本持って行って、それも使ってほしいといっても、やはり使えるものかどうか分かりません。実際に恐らく私たちの今回の調査からも、そのようなものが出てくるのではないかと想像しています。そうすると、いま、委員がおっしゃった市民にも広めてというお話ですが、子ども食堂からすると、それはもしかすると迷惑なのか、それであれば市民でこの食品ロスはどのように解決していったらいいのか、何か別なもう一つの課題が私たちにいま、見つかったかと思っています。子ども食堂は子ども食堂なりに、いかに上手に回していくか、いかに子どもたちや参加する方たちに喜んでいただくかが一番だと思います。そのため、無駄なものを持っていったら、かえって忙しくて大変な思いをされている方たちに迷惑になるのであれば、別な方法をやはり考えなければいけないと思いました。それなりにみなさんの大変さや、これほどたくさん子ども食堂があることを気付かされたイベントでした。

○会長

ありがとうございます。一通りいただきましたけれども、まだ何かありますか。

○委員

先ほど事務局から投げ掛けていただいた問いにもお答えしたいと思っています。今後このようなことを、それぞれ1個のテーマで深掘りしていくのがこの審議会の目的ではないのかと少し思っています。例えばいま、委員が言われたように、そのなかで気付いた課題に

きっと今後アプローチをされていかれるのかという、このような課題解決に動かれる団体をどんどん巻き込んでいくことが必要だと思っています。例えば、減量計画課を中心にフードドライブをされているのであれば、そのつながりのなかでうまくまわるような自立を促してあげるのが審議会の役割なのかと思います。ここで細かい部分を議論してもっと深掘りしていくと、もちろん関心のある方々は意見をたくさん言っていただけたと思うのですが、もっと俯瞰して仕組みづくりまでを整えてあげることがここの目的なのか、私も審議会のねらいがどこまでなのかが少し見えなところがあります。意見として言うと、良い例を取り上げて、うまくこの人たちがまわって、いろいろなことが巻き込めそうです。そして、審議会としては、消費者協会など、新たな人たちもここにいろいろな視点で巻き込めます。うまくこれで市内のごみが減るように、環境負荷が減るように、今後、頑張ってやっていってくださいという指南役なのかというイメージで少し考えているのですが、いかがでしょうか。

○委員

何点かあるのですが、1点目はこのフードドライブという取組みが、政策全体のなかでの位置付け、食品ロスの削減というなかで、どのような特徴のものなのかが、ご指摘のような特徴が出てきたことをまずしっかり明確化しておくことは一つ重要だと思います。やってみると、例えば一般にはお金がないからなどという言葉が出てくるのが、政策を進めているのですが、今回の場合には、予算というよりも食品というもの、普通のリサイクルと違って食品をリサイクルするときの時間的なタイミング、それからそれが本当に使って大丈夫なものなのかという、ある意味応用系です。そのような場合に、それではどのようなところで、このフードドライブとしてやったときに取組みが進むのかという観点から、協働の観点から、一つ明らかにしていくことが重要だという点が1点です。

それから2点目は、では5段階目あるいは3段階目となどというような評価の仕方をするのかですけれども、確かに方向性が見えないと分かりにくいです。フードドライブという取組みとの関係で、軸としては評価の視点はいくつか出しているのですが、この視点はあまり動かさないほうが良いと思います。新たに付け加えるものがあれば付け加えたほうが良いのですが、ものによっていろいろ変えないほうが良いと思います。その場合に、情報の発信は、とても特徴的によくできている、役割分担はあまりきちんとできていないというような形で、その視点ごとに二重丸や丸のような形で最初やっていくのはあると思います。GEOCでも協働取組み促進事業ということで、協働取組み型の事業をやっているのですが、そのための意見交換で目的共有ができたのはやはり2、3年はかかっているのですが、どこに焦点が当たるのかということの共有のようなことは時間がかかるので、一回で全部をやるのは無理ではないかと思っています。少し段階的に進展していくという方向性の時間軸で見たほうが良いのかと思っています。

3点目に、いまご指摘のあった仕組みづくりですけれども、私も意見交換をここで議論し

たほうが良いと思っています。特にこれではなくてはいけないことはないのですが、全部をここで担ってやっていくのは無理なので、今日の資料の1-2の3ページ目のところのコメントの案で、下から二つ目の・で、協働事業市民提案制度の活用のようなことが入っています。もしここで、ここが強み、ここが弱み、このようなことが課題ということが意見交換会で明らかになったら、それをどうプラスの方向に持っていけるのかは、せっかくこのような市民提案制度のようなものもあるので、この場で1年を通じて議論をして、今後具体的な制度につなげていく方向性のほうが現実的であるし、意味もあるのかというように個人的には思います。ここはご意見を伺いたいところです。

○会長

ありがとうございます。他の委員の方いかがでしょうか。先ほど事務局から、これからの進め方について意見が欲しいということですが、何かありませんか。

○委員

今後の進め方については、委員や委員がおっしゃったことに異論はないのですが、少し後ろ向きに言うなら、それすらできるのかというところがあります。最低限どこまでを審議会でやっていくのか、このあたりまではできるというところがあるのかという気がしています。逆にこの段階ではといったことや、グッドプラクティスの共有など、最低限何かにまとめる、最低限環境報告書に載せる

ことに力をかけるけれども、もしくはそれでもって全部を評価してしまうのか、それをもって参加した人に返すほうが、もしかしたら現実的なのかと思っています。多分、審議会でやった結果を一つの議題で、このあたりは助言できるということが、毎年ずっと取り上げていくのはできるのかというように思うなど、別にあってもいいのですが、そのあたりは仕組みの助言やもう少し俯瞰的なところでとどめたほうがいいのかという気はします。いかがでしょうか。

○委員

その最低限と考えているところがどこなのか、よくわからなかったのですが、何をすればいいというようにおっしゃったのでしょうか。

○委員

要は、まとめます、それを参加した人に返します、これはもちろんやったらいいと思うのですが、例えば協働事業市民提案制度の活動が出てきたら、それは誰が助言するのでしょうか。それはここで、ではその団体にこのような制度があることを教えてあげてということであれば、事務局に言って、事務局からそこに言ってあげて、などということはこの審議会で、そのような対応をしましょうと決めることなのかという話です。仕組みをつくる、その仕組

みのところを少し助言してあげるところに踏み込むのか、踏み込まないのかというところだと思っています。つまり、事務局から聞いているのは、これをまとめて分かったことなどレビューしてあげることにとどまるのか、もう一步、その取組みの課題や可能性を進めるためのところに事務局を含め踏み込むのか、踏み込めるのかどうかという議論だと思います。

○委員

例えばフードドライブのことを先ほどおっしゃって、もう少しフードドライブがきちんと進んでいくように、もっとそこに特化してきちんと専門的な意見を言うていくのが目的なのか、フードドライブの仕組みづくりのところに意見をしていくべきなのか。私たちも審議委員としてどのような関わりを持ってコメントをしたらいいのかというところが少し見えなくなっているところなので、どこまで深掘りしますか、ということです。

○委員

もう少し具体的に言うと、例えば先ほど食品ロスは大変だという委員のお話があり、食品ロスのことでもっと新しい切り口が出たから、これは行政的にも進めなければいけない、減量計画課が中心になって頑張ってくださいとなるとすると、これからの可能性にあるようなマッチングのようなことを、どこかと行政が組んでやらなくてははいけません。ではNPOアジェンダでやりますか、また別のところが何かやりますか、などと踏み込んでいくと、毎年テーマがあるので、たまたまマッチするテーマがあって進んでいくといいのですが、まだ試行の一つでもこれだけ盛り上がるので、どこまで踏み込んでいいかよく分からないところがあります。そのようななかで、こちらもどこまで責任を持って言うていいのか分からないところがあります。審議会として、次に進めるための、まとめて共有する、分かったことを伝えることは重要だと思いますが、その次の仕掛けや仕組みなどに関わるのか、そこは特段何もしないのか、そのあたりの踏み込み方というか、うまく言えているか分からないですが。

○委員

それはここで決めればよいと思うのですが、個人的には、それを審議会がやるということは、後半の部分については考えていなかったです。基本的には、現状の協働取組みの評価という軸で、どのようなところまでが達成できているかという観点から見て、それで強みと弱み、それからこの事業の特徴からするとここがもっと活かせるのではないかというところの表現をしてまとめます。それは審議会が最低限やるべきことで、それでその結果として、そうしたらその次の施策として、協働の施策という観点から、フードドライブという意味での協働の施策という観点からは、このような施策が必要ではないかということまではやるのが審議会の役割です。協働事業市民提案制度も、これが活用の可能性なので、これをここ

の審議会で、これの提案制度を使って何かをやるということではなく、例えば減量計画課でも、福祉のほうでも、あるいは市民の側でもいいのですけれども、行政から提案する制度もあるので、これを使って、スキームとして使って、議論していくなかで協働事業市民提案制度を使えたら進むのではないかというように、主体的に考えられるところが主体的に使うという、そのようなイメージです。

○委員

いまおっしゃった、審議会がまとめてより進むための施策に反映するというのを、その審議会が環境部になるのか他の部になるのか分かりませんが、それにアプローチしていくことでは賛成です。それはとても良いと思います。それは良いと思うのですが、ということは、今後審議会でテーマを見据えていくときには、ある程度選出をする段階で、より行政施策に沿って深まるのではないかと、行政がもう一歩踏み込んでくれることで、より効果を発揮するのではないかとと思われるようなテーマをより選ぶほうが良いというようなニュアンスを含むので、そこまで別にこだわるものではないということなのではないでしょうか。

○委員

それも議論すればよいが、個人的な意見を言うと、テーマ選出のやり方としては、まず政策上課題となっているもので、今回でいうと循環のなかでフードロスの削減が、今回の循環の、国レベルでも豊中市でも大きな柱の一つになっているものであるわけです。それを、子ども食堂という形でやる場合には、協働的な取組みがないとできない、なので大きな課題になっているもので、かつ協働的な取組みが必要とされているものであることがまずあります。それから、分野が偏ってしまうといけませんので、分野がそれなりに多様であるということが二つ目で、三つ目としては、豊中市の協働の課題として挙げられてきたことのなかで、やはり他分野とつながって統合的に取組みを進める、あるいは市民としての市民の広がりを多様に進めていけるなど、この基本計画を作る段階で、協働でどこに問題が現状あるのかということが出てきている、それと関わりのあるもの、その部分で何か進められるものを優先的に取り上げていきます。なので、個人的には協働の取組みでやっているものをすべて順番にバタバタと取り上げていくイメージではないです。

○会長

先ほど事務局から宿題があったテーマをどう決めていくのかは、委員がおっしゃった三つの視点は非常に重要だという気はします。要するに、課題となっているテーマ、それが分野対応であること、そして連携をベースに考えていくべきものだと、とりあえずそのあたりはこれまでも議論していたことなので、テーマに関してはそのような三つの視点で考えていくべきなのかという気は、私自身もします。

それから、どこまで深掘りしていくかという先ほどの仕組みなどの話ですが、先ほど説明

していただきましたけれども、基本的に資料 1-3 を作った意味は、列記していてもその関係性があまりよく分からないので、一体現状はどうなっているのか、よく見るとブルーで書いたところは、やはりいま、抱えている大きな課題です。今後考えていく上では、そのあたりに対して、行政なりがかなり仕掛けたり、団体にも働き掛けながら、そのあたりがキーかと思っ書かせていただきました。

私自身は、先ほどお話を聞いて、グッドプラクティスやそのようなお話があるので、連携などのなかで、要するに取組みの優良事例というか、モデル的な事例を、このようなまとめ方もあるのですが、事例をきちんと整理をして、なるほどこのようなことで、このようにしたらこのような達成ができるという、何かそのような具体的な成果というか、そこも結構大事かと思って聞いていました。何となくきれいにまとめてしまうと、実態は分かりません。要するに、どうやったらいいのかは分からないので、少しそのようなモデル的な事例として、これはみなさん使えるのではないですかというような整理などというのは、併せて必要かと思います。ブルーで書いたところは、どちらかというと、行政のほうがこれから考えていけないといけない課題なのかと思います。なかなか連携とって、団体任せではどうしようもありません。行政がやるべきところは、しっかりとやっていけない気がしています。

そのような意味では、あまり大きな仕組みはそれほど意識しなくてもいいのかと、それは結構流動的に動いている部分ももしかしたらあるのかと、僕自身はそのような感覚です。他の委員いかがでしょうか。

これに関しては、いろいろと意見をいただきましたので、あとフィードバックや反省会をどうするのかというお話がありましたけれども、これは当日の結果を事務局でおまとめになったわけですが、その事前準備がありました。それから、要するに事後の反省会がどうかというようなことだったのですが、そのあたり委員どうですか。さらに負担を増やす形になります。

○委員

ここは私のご意見を伺いたい部分です。少なくとも最低限、アンケートといたしますか、参加された方、先ほどもあったように、少し盛りだくさん過ぎたのではないかなど、いろいろご意見が出席して下さった方でもあるようなので、そここのところがどうかとこちらが聞きたいところを、要点をまとめてアンケートでお答えいただくのは少なくともやったほうが良いと思います。それから、このような形で報告書のほうに載せたい、この図も面白いと思いますが、このように考えたけれども、さらにご意見があればいただきたいというところは、それは最低限やったほうが良いと思います。プラスアルファのところはご意見を願います。

○会長

いかがでしょうか。委員、何かいいアイデアないですか。

○委員

委員がおっしゃるように、評価はどの時点でしていくのでしょうか。反省会もフィードバックもやった後に、最終的な形で評価をするのか、それよりももう事前に評価したものを返してあげてフィードバックとするのが少し分かりにくいのと、出てきた課題をどこに返すのかが、まだ私も見えていません。子ども食堂のネットワーク会議に返すのか、個々の団体や行政に返すのか、出てきた課題によって返す場所が違うのかもしれないですが、そこも非常に多様で、方向性が私もまだ見えないところです。そのあたりが疑問だと思うのですが、やりっ放しは良くないので、何かしらの振り返りや今後につながるものは大事です。やっってから結構日数が経ってしまっているんで、本当は直後に何かができたらよかったですのですが、もう過ぎてしまったので、もう何ともならないのですが、何かしら節目のようなものは、出てくださいました方々にも必要ですし、関わったみなさんのなかにも必要かと思えます。

○会長

ありがとうございます。多分その評価は、評価したものを生むのではなくて、キャッチボールしながら最終的に出てくるのでしょうか。

○委員

何もないと意見の言いようもないので、審議会は少なくとも今日やっているわけなので、この審議会ではこのような議論がありましたということ投げないと、多分言いようがありません。ポイントも、このようなポイントでいいのでしょうかというところはあります。それから、どこに投げるのかは、先ほど委員がおっしゃったように、一つはグッドプラクティス事例集のようなもの、それから協働のポイントのようなものにどんどん足していく形にして、それをホームページでもどこでもいいのですが、一つずつ挙げていって、それと同時に関係した方々にも全員向けにメールを送ることなど、できるのではないかと思います。

それからもう1点は、多分、今回、意見交換会が終わった後で、もう少しフリーに何かお話しできる茶話会のような場所があれば、その場で話してもらおうほうが、あらためて集まってというよりもいけるのかなと思います。一応懇親会は設定したのですが、みなさんお忙しいのもあって、それほど出席率は良くなかったかもしれません。大阪大学からも先生が、少しだけ懇親会にも参加してくださっていて、そのときに大阪大学としても何か関わることがあれば、プロジェクトにして何かやりたい、あるいは奥さまがもともとフードドライブをやりたいということを書いて、大変面白かったので、これから話をしに行くというこ

とおっしゃっていました。そのような機会にもなるので、直後にそのようなものがあるといいかもしれないと思いました。

○会長

ありがとうございます。どうぞ。

○委員

評価のタイミングという話ですが、どのような評価をするかという話で、委員の評価の仕方というと、いくつかの軸というか項目があって、それごと評価するのであれば、多分やりとりに関係なく、いくつかの項目は多分もう振り返りを待たずして、評価が自然についてしまうものがあるのかと思います。それ以外に、これからの可能性など、先に発展するような項目については、もしかしたらやりとりをしていくなかで、少し評価が変わるものが出るかもしれません。そのため、評価については、ある程度終わって一定のものが出てきたら、ある程度の項目は評価できるのかと思いました。

それから、先ほどおっしゃったような、行政施策に反映するということにもし投げ掛けることができるのであれば、減量計画課の思いや、あるいは、団体に協働事業市民提案制度について伝えるなど、そこはおっしゃっていただいたものを具体的にやることができたらいいのかと思いました。

○委員

全く異論ないです。そうだと思います。

○会長

ありがとうございます。時間が限られていますので、かなりいろいろとご意見をいただきましたので、事務局いかがですか。ご意見いただいたもので、まだ不足だというのなら。

○事務局

ご意見については、やりっ放しは良くないので、今回のこのまとめや図、今回の審議会で出たご意見も合わせて参加者へお返しをし、アンケートを採らせていただくのが、一つ結論として出てきたのかと思います。

それから、来年度以降のテーマ決めの方向性ですけれども、1年に1テーマということで、分野ごとにあまり偏らずに選んでいくのがいいのか、そのあたりについても少し分からないところがあったので、もう少しだけテーマ決めについてご意見を頂戴できたらと思います。

○会長

そうしましたら、先ほど参考資料のテーマの案がありました。それを説明していただきながら意見交換をやりましょう。

○事務局

ここの参考資料に載せている意見交換会のテーマの案については、環境基本計画の環境分野ごとに、例えば環境政策を推進するための総合的な仕組みづくりから、ごみの分野など、できるだけ協働でやっているような事業を取り出して書いています。この資料を作るにあたり、NPO アジェンダの委員にもご協力いただき、行政と市民団体の両方の面から書かせていただいたものです。参考資料ということで、ここに足りないもの、市の担当者の目から見たら、これは少し違うけれども、例えば大阪府などもっと俯瞰的に見たらやっていることがあるなど、そのような点を NPO アジェンダの委員のほうから補完していただいたものになっています。これはあくまで参考という感じですが、このなかでこれはやってみたらどうかと思うもの、これ以外に例えばこのようなものがあるなど、今日具体的にこれをというテーマを決めていただく必要はないのですが、例えば今年のごみでしたけれども、来年もごみでいいのではないかなど、来年は他のテーマがいいのではないかなど、大体はそのあたりを、個人的なご意見で結構ですので、みなさんのご意見を出していただければありがたいと思います。

○会長

分かりました。次第の2ですけれども、来年のテーマについて、先ほどテーマ選びのお話が委員からありました。いま、説明していただいた資料は、いわゆる環境分野に対応して、内容的なというか、行政で把握している事業をここへ列記されたものです。かつ、一番後ろのほうに活動主体という、どのような関わりがあるかということで、このようなところを参考に選定したいです。この中身についてと、そのテーマの選定について、ご意見があればお願いしたいと思います。

○委員

1つ提案ですけれども、せっかくこの前の意見交換会にいろいろな団体が来てくださっているので、その団体が絡むテーマにしていただけると、連続性が持てて良いと思います。ただ、食品にあまりこだわらずに、もっと広く環境という視野を広げてもらったほうが良いと思うのですが、来てくださって一回でおしまいにならない仕掛けが必要なのかという提案です。

○会長

他の取組みも、いろいろな関わり方があります。

○委員

今回の意見交換会では、とよなか国際交流協会、とよなか男女共同参画推進財団など、一見、環境とは関わりのないところが、来てくださっています。実はとよなか国際交流協会の意見がとても大事で、環境と異なる分野で実際環境に役立つことをしている人にどう意識付けるかを意見していただいています。何か国際という切り口から環境に入ると、協働が生まれていた、生まれる可能性があるなど、せっかく来てくださった方をうまく使ってできたら面白いかという、ハードルを上げましたが提案です。

○会長

ありがとうございます。他いかがでしょうか。少しずつ重なりを持って続けていったらどうかという話です。

○委員

いまの意見は別に反対はないのですが、もともと計画を作るなかの議論があったときは、委員のGEOCの事例などでいう、同時にいくつかのモデル事業のようなものを、同時に一つの場で共有するという動きをされていると思います。それを会場で分かれて共有して、最後に全体で共有するというやり方もされていたりするので、最終的にはやはり1テーマずつ10年やるのではなく、どこかで状況に応じて複数のテーマを取り上げていく段階が来るのかと思っています。そのほうがいいのかと思います。というのは、来年はいきなりなので、別に2テーマ、3テーマと言わないのですけれども、そこは意識したらどうかということの一つあります。

もう一つ、先ほど私が作るのを協力したとあったのですが、実はこの案が出てくる間に結構やりとりがあって、行政が関わっていない市民団体が、幼稚園の屋根に太陽光発電を付ける取組みや、あるいは大阪府が地域でプロジェクトとして花を育てている取組みがあるなど、そのような取組みを入れたらどうかという話をしたのですが、審議会の資料として、豊中市として十分に内容を書いたり、確認を取ったりすることができないので、いまの段階では出せませんと言われました。もし、このなかからどれをやりますかとなると、結局ずっとそのバイアスがかかってくることになってしまうと思います。多分、委員など、まず地域で、自治会などのレベルでもいろいろな環境の取組みをしているところがあるかもしれませんが、そうするとまた課が違うということになります。そのなかには委員も言われました選び方のときに関わってくるものが出てくると思うので、例えば当座は既存の提案やこのような既存リストでいいと思うのですけれども、複数の案件をやるようになってきたときには、少しそのような毛色の違うものも試しに入れてみる、違うところから見えてくるということをもしチャレンジできるのであれば、そのような10年を見据えた上での来年はまず一つやってみるという進め方をしていただいたらどうかというのが希望です。

○会長

ありがとうございます。

○委員

ここの表に足りないものは、どんどん委員からでも出してもらって足しておいたらいいのではないですか。別に限定する必要はないので、その幅を広く取っておいて、そのなかから考えていけばいいです。それから、テーマは別に循環でなくていいと思うのですが、今年関わってくださった団体と関わりがあるテーマ、あるいは少なくとも声をかけるなど、それは本当に重要だと思いました。

本当は例えば、少しタイミングを逃してしまったのですけれども、横断的なものは割とやりにくくて、政策を推進するような総合的な仕組みをつくるのは取り上げにくいのですけれども、聞くところによると、この協働事業市民提案制度について、今年度は改革に向けた議論も行っているということなので、タイミングが合えば、これをいままで使った人はどこが使いにくかった、これのメリットはどう、という形で本当は取り上げてみても、横断としては面白かったのかと思います。新しい制度ができるようなので、できた後、その広報も兼ねて、みなさん知らないというのもあると思うので、そのようなものも一回取り上げてみるということもあるかもしれません。個人的には、やはり環境基本計画を作るなかで、いろいろな議論があった生物多様性との関わりで何かあるというのは、テーマ別でいくと次としてあり得るのかという気がします。

○会長

ありがとうございます。

○委員

いま、委員のほうから、協働事業市民提案制度の活用というお話が出ましたので、いままさに私どもとよなか ESD ネットワークとコミュニティ政策課で進めています。いままで成案化した事例全部の行政側と市民団体全部にアンケートとヒアリングをして、どのようなことが成果だったのか、どのようなことができなかったのか、どのようなことが課題かを、学識の先生も入っていただいて、丁寧に全部まとめているところです。来年度は、成案化しなかった、提案したけれども落ちてしまった事例もいくつかあり、どの時点で落ちてどこが課題だったかも、コミュニティ政策課と一緒に洗い出していく予定ですので、うまくそこの協働もここにすり合わせしながら、何か成果が出てくればいいということです。いまそのような形で進めているところです。

○会長

そのような意味では、先ほど委員が言われた地域レベルでの取組み、逆に豊中ではあまりやられていないけれども、大阪府レベルではやられているなど、少しそのあたりもこれからの種として非常に重要な意味を持っているので、取り上げるかどうかはともかくとして、何かこれから展開したほうが良いと思われるものは追加して検討したほうがよさそうですね。協働事業市民提案制度との絡みも結構、なかなか普通に言っているものとは少し違うものではないでしょうか。他はいかがでしょうか。

環境審議会環境基本計画推進部会のほうでは、低炭素社会づくりのところで、平成20年度から市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業をやられています。これを総括してみたらどうかという話は出ていました。これはまた別の分野として。ご意見いかがでしょうか。ありませんか。

とりあえずは、来年度は今回のものと少し絡みを持たせながら、別の分野のテーマで少し切り込んでいったらどうかと思います。そのような方向でよろしいですか。ありがとうございます。

そうしたら、具体的にはまた次の審議会でもテーマを議論するというので、もう一つの議論で、第3次豊中環境基本計画の進行管理ということでお願いします。

3. 第3次豊中環境基本計画の進行管理について

○事務局

資料 2-1 「第12期豊中市環境審議会スケジュール（案）」

資料 2-2 「第3次豊中市環境基本計画 実績公表の見本（案）」

資料 2-3 「代表指標の評価の判断基準（案）」

についての説明

○会長

ありがとうございました。活動の実績の公表の仕方をどうするか、いまご説明いただきました。ご意見いかがでしょうか。

○委員

たくさんあるので、とりあえずはスケジュール関係のあたりを、まず質問も含めてお尋ねしたいです。先ほどご説明いただいた啓発用のパネルでもって、来年度でいうと平成31年度の3月の終わりのところに、この啓発用パネルで1年後に紹介されるということでした。これは見開きのA1横向きで1つの目標が1枚のパネルというイメージでいいのですか。4つの目標があるので、4枚になるということですか。という話と、平成31年度のところに、来年実施する意見交換会は、この成果をこの3月のパネルにしたときに、それは入ってくるのですか。それから、市民事業者の環境活動の情報収集を行い、市民の取組みは、中間報告

ではなく、確定版に出ていますけれども、最終の報告書は2年後になってしまうので、これについては1年後のものに出るのかという、そのような疑問があります。

言いたかったことは、いくつかあります。1つは、ウェブ上に出すのは関心を持って見たい人に詳しく載っているのでもいいと思うのですけれども、この資料 2-2 のようなものでパネル展示を出して意見を求めるのはかなりハードルが高いので、果たしてそれで市民意見をもらえるのでしょうかということがあります。

それから、平成 32 年度の頭にこの展示をしたいと書いていますが、出前講座などと書いていて、出前講座では啓発パネルをプリントして配るのですか、それともそのために別の資料をまた新たに作るのですかという質問があります。

それから、前から言っているのですが、平成 32 年度の頭に平成 30 年度の話をして、去年の話ではないのか、一昨年のお話なのかということになってしまえば、かなり混乱をきたします。そのため、せめてこの中間報告については、いまでいうと例えば9月に出しているものは、1年後の7月頃の話だと思うのですけれども、せめて3カ月ぐらい前に縮めて、平成 31 年度のものであれば、その平成 31 年度の1、2、3月ぐらいにこのようなものをやりますとずらしたら、また昨年度の方ですと言ったら、まだ少し理解がましな気がします。そのため、同じ2年間で変更しても、その中間報告についてももう少しスケジュールを縮めることができなかが気になります。

もう一つは、いま、環境フォーラムなどをしていて、市民意見をそこで出してくださいと言ってもなかなか出てこないという課題があって、事務局が苦労されています。それが、環境フォーラムはあまり人が来ないからやめようということなら、そのことについて議論があってもいいと思うのですが、では代わりに展示にしたから市民意見がたくさん来るといふことでは多分ないと思います。逆にこれは、この方針を取ることのほうが、結構事務局は自分で自分の首を絞めてしまうことになるのではないかと思います。本当に市民意見を取りたいのなら、市民意見を取るための違う方法を考えるべきであるし、市民意見が本当に必要なのであれば、集まってもらって、そこで意見を取る取り方を、環境フォーラムとは違う集まる場を考えるなどするほうが大事ではないかと思います。スケジュール、資料 2-1 と資料 2-2 だけの意見ですが以上です。

○会長

ありがとうございます。事務局お願いします。

○事務局

パネルは、これは横向きに入れるのではなくて、1枚が1パネルというイメージなので8枚、目標2から5までで8枚、あと目標1のところは何枚になるかで合計10枚か11枚かというイメージです。いつも展示で使っている大きなA0サイズで展示するように考えています。

○委員

いまの目標 1 や市民の活動のものも一緒に展示されるのですか。

○事務局

はい。

○委員

要は、小さくはならないけれども、パネルの枚数としては結構なボリュームになるということですね。

○事務局

それから、出前講座などに行って違う資料を作るかどうかですが、今後また検討していくと思います。いま、考えているのは、例えばこの啓発用パネルと一緒にパワーポイントでパソコンで流せる説明を作っておいて、それをパネル展示と一緒に流す、出前講座で行ったらそのパワーポイントを使って説明するなどでどうかと考えています。

このスケジュールが 3 カ月ほど前倒しにできないかどうかは、資料の他のところとの翌年平成 32 年度のところをご覧いただいたら、こちらのほうは、平成 31 年度は背景が青の作業だけですけれども、背景がピンクの作業が入ってきます。それとの兼ね合いがあるので、また次回の審議会までに事務局のほうでスケジュールを見てまた提案をさせていただきたいと思います。

○会長

先ほどの環境フォーラムで市民意見をもらうか、パネル展示など、そのあたりはどうですか。

○事務局

環境フォーラムについては、環境フォーラムを開いて市民意見を募っても、「とよなかの環境」に関する意見がなかなか出てきません。アンケートを書いていたとしても全然違うことに関する意見があるため、なかなか思うようなものがいただけません。そのため、少し違う形でということも考えています。例えば審議会の先生方のなかで、このようなことをしたらどうかというものがもしあれば、アドバイスをいただけたら助かるのでお願いします。

○会長

いまの市民意見の取り方についてアドバイス、コメント、ご意見ありましたらお願いします。

○委員

なかなかこのままでは、「とよなかの環境」に対して意見を言うのは難しく、私自身も意見を出してと言われて、とても向き合えないと出せない状況です。「とよなかの環境」を市民の方に分かりやすく見せていくのはとても大事だと思います。市民意見が待っていても来ないので、やはりアウトリーチしていかないといけないと思います。やはり環境関係の活動をされている団体の所にお邪魔してご意見をいただくのが一つです。あとは、例えば私などは子育て支援の活動をしているので、お母さんたちが集まる場において、もう少し暮らしと照らし合わせた形で、みなさんの生活のこの部分がこうなって、温室効果ガスの排出量が増えているかもしれませんなど、翻訳することが必要です。日々の生活をしている人たちに向けて、例えばとよなか消費者協会にお邪魔して、ここの部分のご意見をいただけませんかなど、割とピンポイントで出向いてご意見をいただく機会をつくらないと、「とよなかの環境」についてお話をするから集まってくださいといっても、多分、集まりません。私も環境教育の活動などをしていても、なかなかその部分に集まる人は年々減っていつている状況です。

そのようなことには利用したくないのですが、今年でいうと非常に災害が多くありました。防災の部分と付けて、実は災害が起きていることと環境のこととはつながっていて、みなさんの日常の生活で出している CO2 がこのようなところにも影響を及ぼしていますというところを、咀嚼して説明しながら、ではみなさんこれはどうですかということに持っていくなど、そのあたりの工夫は要と思います。待ちではなく、出向いて言葉で説明するなかでご意見をいただくという丁寧な取組みをしないと、なかなか市民の意見は集まらないのではないかと思います。そして、市民の意見が集まっていなかったという課題があったのも、私は今日初めて知ったので、もっとそのようなことを市民団体にも、そのような課題があるということ振っていただけたら、協力してくれるところはもっとあるのではないかと思います。

○会長

ありがとうございます。確かに出向いていってというのは大切ですね。パネルなども、ただ置いているよりも、時間を決めて事務局の職員が立って説明をするなど、やはり自分で見るのは大変ですから、少し説明しましょうかという話でやると耳を傾けてくれるのではないかと思います。

○委員

先ほどの委員の質問に対して少しわかりにくかったのは、スケジュール案でいうと、現在は「とよなかの環境」の中間報告を出していって、それで「とよなかの環境」の確定版を3月に出ますが、その中間報告を作らなくてもよくなった分だけもっと早くに最後の確定版

が出てくるのかと思ったら、その確定版が翌年になっているところが非常に分かりにくい
です。ですから、なぜそうなるのかを、もう一回事務局にご説明していただいたほうがいい
のではないかと思います。

それから、いまの市民意見のところは誰が作るのかよく分からないのですが、一般的に言
うとクイズ方式だと割と意見が出てきます。「なぜここだけこれほどごみが増えてしまった
のでしょうか。」「これは災害ごみでした」など、そのようなクイズ方式でやっていくなど、
楽しみながら何かするとこのようなところでこのようなものが結構大変だったのだという
話に分かります。広報するには本当はクイズ形式やゲーム形式が、いま、環境展でもどこで
も使っている方式なのでいいとは思うのですが、楽しいクイズを誰が作るのかという問題
はあります。

出向いて行ってというのは、子育てのところであれば、子育て世代と関係あるものに着目
して説明するなど工夫しなければ、説明が全部同じだとあまり意味がないかもしれません。

○会長

ありがとうございます。スケジュールについて少し補足説明をお願いします。

○事務局

聞き間違いだったかもしれませんが、委員が言っていたのは、「とよなかの環境」の中間
報告が平成 31 年度に公表されて、市民意見募集が平成 32 年度ということがわかりにくい
というご意見だったと思いますが確定版の件ですか。

○委員

いいえ、私の言っている意見と委員の意見は違うと思います。私が言っている意見はご理
解のとおりですが、委員の意見は、多分、全体としてなぜ 2 年にかかるのかという質問だと
思います。

○委員

全部が後ろ倒しになっている感があるということです。市民意見募集もそうであるし、確
定版もさらに 1 年遅れになるということです。

○委員

私の意見に関係なく、なぜ 1 年でやっていたものが 2 年になるかという質問として、事
務局がお答えいただいたらいいと思います。

○事務局

基本計画の策定のなかでも議論させていただいています。これが確定版のなかの、次年度

の予算に反映するというような内容を書いています。このスケジュール案の平成30年度のところを見ていただくと、これが今年度のもですが、いま、1年でこれを進めています。9月に中間報告を出して、10月に市民意見をもらって、それに対して来年度やっていけるかどうかも含め各部局から回答をもらい、報告書に載せて3月に確定版を公表する流れになっています。市民からいただいた意見の対応は、同じ年の3月にそのような流れにしていますが、第2次環境基本計画を作ったときよりも、予算編成の時期が早くなっていて、こちらの平成30年度をご覧いただいたら、この次年度施策事業プランに反映というものが10月から矢印が出ています。ここのところの作業が大体7月8月ぐらいから始まっていくので、このスケジュールではもう翌年31年度の予算への反映はもうほとんど難しいということがあります。そちらのところでもう年度内に確定版をお出ししても、なかなか確定版に書く内容の予算のところ書きにくいので、2年にわたる形にさせていただいています。

前回の第3次環境基本計画の策定のなかで、そのようなことのご説明をさせていただいて、こちらのスケジュールの案については、これは今回初めて出すものではなくて、この第3次環境基本計画の策定のなかでこのスケジュールは出させていただいていた、そのスケジュールのなかに今回お示しするのは紫色の吹き出しを付けさせていただいている部分となります。

○会長

ありがとうございます。これは確かにこれまで議論をしたスケジュールなので、またそこまでもう一回やり直すと結構大変だと思います。要は施策事業に反映させることで、2カ年に分けてやることで、この審議会で了解したということだったと思います。スケジュールの若干の前倒しのところは、可能な範囲でもう一度検討していただけたらと思います。今日はそれを受けてこちらの実績公表の中身について、こちらのほうの話題に移りたいと思います。こちらのほうでご意見をいただければありがたいと思います。委員何か先ほどの件でありましたか。

○委員

1つだけスケジュールの話ですが、多分、前の期の審議会の最後のほうにスケジュールが出てきて、私そのときから先ほど申し上げた平成32年度の初めのものは前倒しすべきとずっと言っていました。「これは確定ですか」と言ったら、「これは本年度も含めてまだ継続して議論しています」ということだったので、私は確定しているものではないと、これはまだ議論の余地があるものだとして認識しているので、それにのっとって発言をしていますと言わせてもらいます。

もう1つ、いまの事務局の説明からいうと、従来のもを3月に出るもののなかで、次年度の施策事業に反映するというので、具体的に翌年度同じようにいくら使いますと金額が入っているということで、このPDCAを回しているということだと思います。2年間かけ

てやるのだから、きちんと2年間で出てきた、例えば意見交換会でこのような投げ掛けをして、このようなことをもっとやったらいいのではないかなどは、2年後にこれが新しく増えることであることより明確に、2年間でやるのだから2年間で明確に施策に持つてくるということという、その要求水準が上がることは申し上げておきたいです。1年でやるけれども、金額とはなかなか合わないという手を取るのか、2年かけるからじっくり施策に反映する手を取るという説明を事務局がされるのであれば、私はそこには責任を持っていただきたいと思っていて、この議論で2年間かけてやるのであれば、そこはしっかり新しい施策は当然打つたから2年に延ばす、そこはよりそこに注力をするということであれば納得ができません。そこは2年にするポイント、先ほどの議論のような話がしっかりそこに出てくるようにしていただきたいと思えます。それが先ほどの流れで言いたかったことです。

それから、資料2-3のことですが、計画策定時から申し上げていたのですけれども、目標達成のめやす線が私はずっと個人的には引っ掛かっています。最終年度の数字と数値が決まっているので、線を引いたら、絶対計算していったら、平成32年度はいくらという数字が計算上出てくる数字だと思います。そうしたら、そこを上がっているか、下がっているかという判断をダイレクトにしてしまう、つまり①の前計画と同様な考え方を取ると、最終年度に何パーセントを目指すという目標ではなく、毎年このような数字で毎年評価していく計画でないとおかしいではないかと、ずっと言ってきました。ですから、めやすといながらも、めやす線がすべての評価基準を作ってしまったら、基本計画で書いていること以上にやり過ぎてしまうことになるので、そのような意味では、私はこの(1)の同様な考え方は前から反対をしていたので、今回も反対ですということは申し上げたいことです。

評価の判断基準を設けないというのもいいと思えます。しかし、そうすると市民の人に分かりづらいということがあるのならば、めやす線を撤回までは言わないですが、仮にめやす線を使ったとしても、それはあくまでも参考の一つであって、それ以外の要素も含めて審議会で評価をしていくなど、そのようなことのほうがより実態に近いのではないかと思います。少なくとも(1)のような前計画と同様なめやす線を上がったから、下がったからということだけで判断をするのはいかがなものかということは、あらためて意見をさせていただきたいと思えます。

○会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。お願いします。

○委員

私も委員の前半のことについては、このスケジュール案自体は前から出ていたのですが、やはり意見があって、いろいろ問題だから議論してほしいというように出てきていたのは、

そのような理解です。少し認識の違いがあったのかもしれませんが、このスケジュール案が出てきていたのと、そのような議論とは別問題だったかという感じがしています。

あとのほうの話は、めやす線自体は付けられるものと付けられないものがあります。それで基本的には、シンプルな例でいくと、ここの国のレベルでいう低炭素都市の計画が現在全国レベルで16都市しか使っていないのですけれども、それを最終的に50まで持っていくといったときに、毎年1つつ増えていくものではなくて、例えばどこかで計画づくりが始まっているのは、これは中身が進んでいるものなので、数としては最終的に決定した計画としては3つしかなくても、進んでいることになるわけです。どこで仕込みをやっていて、それでその仕込みのところが最後に成果としてバタバタと出てくるものもあるので、これはめやす線というか、均等配分するところなるという話で、最後に出てくるものもあります。そのため、それを反映したものにしたほうが良いということかというと、基本的に判定基準を設けないのはほとんど進捗管理が効かなくなるので、(3)はあり得ないと思います。やはり(2)をどのように持っていくかという話になると思います。全部審議会で評価していたら大変なので、従来と同様の考え方に即して当てはめてみるとこうなるけれども、仕込みをしていますなど、実は少し目標に近づいている、進捗があるものをマーキングしてもらって、そのようなものに限って議論していくのもありかと思います。

○会長

ありがとうございます。他の委員の方はいかがでしょうか。いまの大久保委員のお話でいくと、要はここで書いてある(2)のところ、Aのところ、括弧書きは抜いておいて、一応めやす線に関わる動きを参考にしつつ、審議会のなかで議論してABCDを決めていくという意見です。他の委員の方はいかがでしょうか。多分そのあたりが落としどころという気はしています。何かありませんか。大体そのような方向でよろしいですか。

それから、ABCDの評価、◎、○、△、×というお話ですけれども、いろいろご意見あると思いますが、◎、○、△、×というのは、確かに一般の人が持っている絶対的なイメージがあるので、評価のなかの意味を取り違えられる危険性がありますから、ABCDという形のほうがいいと思います。いろいろな行政評価のところも基本的にはABCDでやられているということと、思っていますけれども、このあたりはどうでしょうか。何かご意見ありますか。いいですか。

○委員

内容的にはDは不可ですね。

○会長

優、良、可、不可のことですね。そうしたら、時間も迫ってきましたので、いまの資料2の3については、この(2)で、あえて目標達成の有無は外して、グラフのなかに目標達成

のめやす線は一応残しておいて、これはあくまでもめやすという形で、その動きを見ながらこの審議会で判断するという形でいきたいと思います。それから、表示方式は ABCD ということでいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

一応今日予定していた次第は以上です。事務局にお返ししたいと思います。

○事務局

次の環境審議会推進部会と環境審議会の連絡

○会長

それでは、どうもありがとうございました。